上条「ペルソナ４オーディションか・・・」（２、里中篇）

ロケット歯ブラシ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
上条「ペルソナ４オーディションか・・・」（２、里中篇）

【Ｎコード】
Ｎ６６９２Ｙ

【作者名】
ロケット歯ブラシ

【あらすじ】
ペルソナ４オーディション。役者、上条当麻がＴＶドラマ「とある魔術の禁書目録」出演の後、再起を狙って受けたＰ４オーディション。そして、収録に望む。
上条「ペルソナ４オーディションか・・・」（１、花村篇）の続き

（前書き）

ペルソナ４オーディション。役者、上条当麻がＴＶドラマ「とある魔術の禁書目録」出演の後、再起を狙って受けたＰ４オーディション。そして、収録に望む。

上条「ペルソナ４オーディションか・・・」（1、花村篇）の続き

里中「上条君、こんにちは」

上条「うーす、里中さん」

里中「いいって、かしこまらなくて、千枝で。みんなそうよんでるから」

上条「はい、じゃあ・・・・・・千枝」
赤くなりながらもじもじとする上条

里中「ちょっと待った、やっぱ、里中って読んで」
（危うく、フラグがたつところだった）

上条「はい、里中さん」

アトラスP「花村君は不慮の事故により、入院中なので、今回は二人での撮影になります」

里中「そうなんだ～、不慮の事故って。何か知ってる、上条君」

上条（殴って入院させたことは、箝口令がしかれてるからな～、ここはごまかそう）
「さあ～、聞いていませんが」

里中「そうなの、じゃあ、さっそく、撮影始めますか。千枝ちゃん頑張っちゃうぞー」

監督「では、撮影を始めたいと思います」

上条「監督、ちょっといいですか」

アトラスP（きたきた）

監督（くううううう、またお前か、あの後、俺がどんだけ苦労して編集したか。ペルソナを打ち消したがって。軽く三徹したぜ。腹の調子が悪いのに）

「何だい」

上条「あの～、脚本のこの部分何ですが」

アトラスP「そうか、ピンときたってことだね。君の好きなようにやりなさい、上条君、ただし怪我にはきをつけて」

（やらしてみたい、でも世界的アスリートを怪我させてはさすがにやばい。頼むぞ、上条君）

上条「はい、わかりました」

里中「上条君、頑張ろうね」

台本←

ーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーー

里中（偽）「雪子が、あの雪子が、私に守られてるって。自分には何の価値もないってさ。そうでなくちゃてね」

里中（本物）「何言ってるの}

里中（偽）「雪子は美人で、色白で、女らしくて、男子なんかいつもちはほやしてる。その雪子が時々私を卑屈な目で見てくる、それがたまらなく嬉しかった」
「その雪子が、本当はあたしがいないと何もできない。あたしの方が、私の方がずっと上じゃない」

里中（本物）「違う、違う、こんなのあたしじゃ」

上条　「無事かー里中」

里中（本物）「見ないでー、こんなのあたしじゃ」

里中（偽）「今までどおり見えないふりで押さえつけるんだ、あんたも、私を？」

里中（本物）「だまれ、あんたなんか、あんたなんか、私じゃない」
里中（偽）「ふう～ん、あはははは」　「我は神、真なる我」

里中（偽）→里中（シャドウ）

ーーーーーーーーーーーーーーーー
監督「では、始めます。3、2、1、ハイ」
（頼むよ、上条君）

アトラスP（信じるものは救われる）

ーーーーーーーーーーーーーーーー

里中（偽）「私が里中千絵だよ」

里中（本物）「えっつ」

里中（偽）「雪子が、あの雪子が、私に守られてるって。自分には何の価値もないってさ。そうでなくちゃてね」

里中（本物）「何言ってるの」

里中（偽）「雪子は美人で、色白で、女らしくて、男子なんかいつもちはほやしてる。その雪子が時々私を卑屈な目で見てくる、それがたまらなく嬉しかった」

「雪子は、本当はあたしがいないと何もできない。あたしの方が、私の方がずっと上じゃない」

里中（本物）「違う、違う、こんなのあたしじゃ」

上条　「無事かー里中」

監督（さすが里中さん。世界で戦っているだけはある、本番に強いタイプだな。だが、しかし、ここからだ）

里中（本物）「見ないでー、こんなのあたしじゃ」

里中（偽）「今までどおり・・・・」

上条「どっちが、里中なんだ？くそーーー分からない」

監督・アトラスP・里中「「「！！」」」

監督（あいつ、被せた上に、早速、脚本ぶっちしやがって、それに何を）

アトラスＰ「まさか、上条君には、里中（偽）が見えているというのか」

監督（！！！）

里中（本物）「私が里中千枝よ」
（もおー、何で、また同じ繰り返ししないといけないのよ）

里中（偽）　「私が里中千枝よ」
監督（やってやるぜ、絶対的に脚本通りにしてやる）

里中（偽）「雪子が、あの雪子が、私に守られてるって。自分には何の価値もないってさ。そうでなくちゃてね」

里中（本物）「何言って・・」
上条「それでいいじゃねかーーーー」

里中（くううー何なのよ、この子さっきから）

上条「それだけお前は雪子を大事に思っているということだろ。そんなに一途に思うことなんか普通できないぜ。里中、自分に誇りをもてよ」

里中（本物）「私、私が誇りを」
（ドキッ）

監督（くそー、このままでは、前回の二の前だ。なんとしても、シャドウ化さしてやる）

里中（偽）「私は、雪子を踏み台にしてのし上がるの。嫉妬、妬み

が私を強くするの」
監督

上条「それで結構じゃなねーか。嫉妬も妬みも全部含めてお前なんだろ。そんなお前だからこそ、雪子のためになってやれんだよ。里中、お前はお前だ、奴はお前じゃない」

里中「私は、私。私は私よ」

監督（くうう、あれ！？、何でさっきから、里中さんも上条もこっちを）

上条「そうだ、お前はお前だ、
　そして、偽物のお前は偽物、お前がみている、その幻想をぶちこわーーす」

ドスっ
上条が監督を殴り飛ばす。パンチを受けた物体は、弧を描いて宙飛び、簡易トイレに突き刺さる。

〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰

アトラスＰ「ブラボーーーーー、ワンダフル。」

上条「すいません、今回もついのめり込んじゃって」

里中「いいって、いいって、結果おーらい」

アトラスＰ「そうだよ、監督もそう思うだろ？あれ、監督はどこだ？、誰か、監督の居場所を知らないか？まったく、こんな素晴らし

い演技を役者がしているっていうのに」

上条「あれ、誰かを殴ったような。そんな気が・・・」

里中「あれは、一種のゾーンに入ってたのよ。私もウインブルドンにでた時、実際にはいるはずのない影をみたことがあるわ。上条君はまさにその領域に、頂きにたどりついたのよ」

アトラスP「さすが、トップレベルの二人が共演したことによる一種の奇跡だな」

上条・里中・アトラスP「「「はははははは」」」

スタッフA「あの～、監督トイレにいました」

（後書き）

コメント歓迎

ブログに色々書いてますｈｔｔｐ：／／ｍｉｓｔｂｏｒｎ．ｂｌｏｇ１１１．ｆｃ２．ｃｏｍ／

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n6692y/

上条「ペルソナ４オーディションか・・・」（２、里中篇）

2011年11月20日16時41分発行